

# 令和6年度 山口県学力定着状況確認問題の結果について【中学校】

下松市教育委員会

## 1 結果の公表 にあたって

令和6年度「山口県学力定着状況確認問題（CBT方式）」は、児童生徒の学力の状況や生活習慣、学習環境の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。

今回の結果をもとにして、本市におきましても、引き続き、学校と家庭・地域が連携・協働し一体となった取組を推進してまいりますので、御協力をお願いします。

### ○ 実施期日

- ・令和6年10月16日（水）～10月18日（金）小学校5年、中学校1年
- ・令和6年10月11日（金）～10月16日（水）小学校6年、中学校2年

### ○ 実施内容

小学校5、6年生 国語、算数（※5年生は理科も実施）

中学校1、2年生 国語、数学（※中学校2年生は理科・英語も実施）



## 2 教科に関する 問題の結果について

【国語】 1年生・2年生ともに県平均正答率を上回っている。

【数学】 1年生は県平均正答率を上回っているが、2年生は下回っている。

【理科】 県平均正答率をわずかに上回っている。

【英語】 県平均正答率を大きく上回っている。

→「知識・技能」の問題は、どの学年・教科も平均をほぼ上回り、基本的な学習内容の定着が図られています。記述式問題（考えを書く、理由や方法を説明する等）においても、引き続き一定の成果が見られました。しかし、問題によっては、20%以下の低い正答率もあり、今後とも記述式問題にチャレンジしていくことが重要です。

### ◎（市平均正答率の高かった問題） ▲（市平均正答率の低かった問題）

## 国語

- ◎ 話合いの中で適切に質問することができること（1・2年）
- ◎ 同音異字（表）を理解すること（1・2年）
- ▲ 語句の文脈上の意味を理解すること（2年）
- ▲ 読み手に伝わるように表現を吟味し、文章を書くこと（1年・2年）



## 数学

- ◎ 分数の減法・乗法の計算ができること（1年・2年）
- ◎ 立体の底面と高さの関係を判断することができること（1年）
- ▲ グラフから必要な情報を読みとることができること（1年）
- ▲ 動画場面と空間図形を関連づけ、円柱の側面積を求めること（2年）



## 理科

- ◎ 条件を正しく読み取り、実験結果を正しく考察すること
- ◎ それぞれの情報や知識を使って、日当たりの良い・悪いを予想すること
- ▲ 自分位置を俯瞰して、棒を見るための位置を正しく答えること



## 英語

- ◎ 日常の話題について、情報を正確に聞き取ることができる
- ◎ 基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと
- ▲ まとまりのある英語を読んで、その内容に関する自分の考えを書くこと



3 課題の見られた問題例

国語 読み手に伝わるように表現を吟味し、文章を書く問題 【1・2年】

③ 田中さんは、「出会い」をテーマに、随筆を書くという学習に取り組んでいます。次は、田中さんが構想をまとめた【ノートの一部】と、【随筆の下書き】です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

【随筆の下書き】

①燃えるような太陽が頭上に輝き、熱気が校庭を包み込んでいた。色とりどりの旗とがハチマキが美しい。その日は中学校に入って初めての体育祭の日、1年に1度の大イベントだった。校庭には生徒たちの歓声が響き渡る。汗が額から流れ落ち、暑い日差しに照らされ、まるで星のようにきらきらと光り輝いている。

②「走れ!」「がんばれ!」一応援団の声が風に乗って選手たちの背中を押す。私たちはその熱気に満ちた雰囲気(きふき)に身を委ね、一体感を味わった。考えるよりも先に、私も声を出していた。大きな声を出すなんて私にはできないと思っていた。A、私は全力で声を張り上げている。「がんばれ!」

③最後の瞬間まで私たちは全力で体育祭を盛り上げた。まるで夢のような1日だった。これまで経験したことのない興奮に包まれたその1日は、忘れられない思い出となった。そして、私は、私の知らなかった新しい私に出会った。

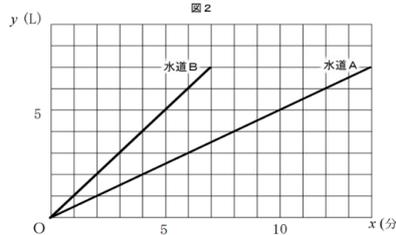
④あれから1週間(しゅうかん)が経つが、私の興奮は冷めない。 B

6 田中さんは、【随筆の下書き】 B の部分で、【ノートの一部】の④段落で伝えたいことを書いて文章を終えようとしています。あなたならどのように工夫して書きますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。(完答)  
ア「あれから1週間(しゅうかん)が経つが、私の興奮は冷めない。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。  
イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

※ 1・2年生とも同じ問題が出されており、1年生では14.5%、2年生では26%の正答率でした。

数学 用語を用いて、データの特徴を説明する問題 【1・2年】

7 はるとさんとあおいさんは、2つの空の水そうに、それぞれ同時に水を入れ始めました。はるとさんは水道Aを、あおいさんは水道Bを使って水を入れました。次の図は、水を入れ始めてからX分後に容器に入った水の量をYLとして、グラフに表したものです。



水を入れ始めてから6分後に、2つの水そうに入っている水の量の違いを調べる方法を、「グラフの縦軸」もしくは「グラフの横軸」という言葉を使って説明しなさい。ただし、実際に値を求める必要はありません。

※ 1・2年生とも同じ問題が出されており、1年生が14%、2年生が24%の正答率でした。

4 今後の取組

★ 学 校

- 学校の組織的取組の強化 (学力向上プランの重点化、教科・学年の枠を超えた研修の推進等)
- 児童生徒の「学習力」の向上をめざす授業改善 (誤答分析を生かした授業改善、「キラリくだまつ授業づくり」の活用等)
- 校内研修の活性化と指導の充実 (育成すべき資質・能力を確実に育む授業改善、「やまぐち学習支援プログラム」の活用、個に応じた補充学習等)

★ 家庭・地域

- 学習・生活習慣の確立 (「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)
- コミュニティ・スクール、やまぐち型地域連携教育の仕組みを生かした学習支援 (地域の人材を活用した授業や取組等)

★ 下松市教育委員会

- 「キラリくだまつ授業づくり」に基づいた授業改善の推進
- 授業における「振り返り」活動の推進
- 課題と考えられる状況等の情報提供
- 学校訪問等による指導・助言
- 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりに関する指導・助言
- 下松市学習指導実践研究校の指定